

県立高校生の学びに関する取組について

子どもたちの生きる力を育む高等学校づくり

本県教育の取組の視点

- ①未来社会を見据えた学習者主体の人づくり
- ②多様化する子どもたちの状況に対応し、誰一人取り残されない学び
- ③高等学校段階の充実した学び 等

魅力ある県立高等学校づくりの推進

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針や滋賀の県立高等学校魅力化プラン、各学校のスクール・ミッション等に基づき、生徒の多様なニーズに応える魅力と活力ある学校づくりに取り組む。

- 各県立高等学校の魅力化の推進
- 産業教育の充実
- キャリア教育、起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の推進
- 地域との連携の推進
- 高等教育機関との連携の推進
- 企業等との連携

令和8年度の重点的な取組



普通科・専門学科の
魅力化・特色化



地域・社会
との連携



グローバル
人材の育成

主な施策



県立高等学校の魅力化推進

- ▶「北の近江振興」高校魅力化推進プロジェクト事業
- ▶多様な学び重点カリキュラム研究開発事業
- ▶高校魅力化チャレンジ事業



地域とつながり、産業人材や起業家精神を育成

- ▶シン・マイスター・ハイスクール
- ▶高校版DMO・観光ビジネスプロジェクト
- ⑨ ▶しが未来クラフトプロジェクト



新時代を見据えた「主体的・対話的で深い学び」のアップデート

- ▶学びの最適化・高度化推進拠点形成事業



企業や高等教育機関と連携し、新たな価値を創造し課題解決の道を切り拓けるイノベーション人材を育成

- ⑨ ▶ Shiga STEAM × 探究プロジェクト



世界に羽ばたき、グローバルに活躍できる人材の育成

- ⑨ ▶ トビタテ！留学JAPANアライアンス事業
- ▶ 国際バカロレア推進事業

「北の近江振興」 高校魅力化推進プロジェクト事業

教育委員会事務局
高校教育課
魅力ある高校づくり推進室

令和8年度当初予算額 18,720千円 (⊖) / (令和7年度当初予算額 19,000千円 (⊖))

1 事業目的

北部地域の高等学校で学ぶ生徒が、北部ならではの地域資源を活用した探究的な学びや地域と連携した学びを深めることにより、北部振興について考えるとともに、課題解決に必要な資質を養成し、北部振興に寄与する人材の育成を図る。

2 事業概要・スキーム

1. 北部地域の高校における探究的な学びの推進 (14,320千円)

【内容】北部ならではの地域資源を活用した学びの実施や地域への情報発信

- ・地域の企業や団体等、地域の方々と連携し、地域の特色を生かした、より実践的な課題研究や学び。
- ・外部講師による講義や、大学等の外部機関との連携授業。
- ・地域に向けた積極的な広報活動。

【事業実施校 (9校)】

長浜市：長浜北高校、虎姫高校、伊香高校、長浜農業高校、長浜北星高校
高島市：高島高校、安曇川高校
米原市：伊吹高校、米原高校

2. 「北の近江振興」高校生サミットの開催 (4,400千円) ※委託料

【内容】北部地域の高校生が、地域の魅力や課題などについて考えた提言等を発表・共有し、学校の枠を超えてつながり、共に考える場を創出する。

【契約方法】公募型プロポーザル

【R7実施内容】

開催日：令和8年2月11日 (水・祝)

場所：米原市民交流プラザ・ルッチプラザ

参加人数：高校生44人、一般来場者146人、来賓等12人、引率教員等20人

内容：課題研究活動の成果発表、パネルディスカッション



北の近江振興
プロジェクト

展開
イメージ

探究的な学びの推進



- ・地域の課題や魅力の発見、研究
- ・課題解決に必要な資質を養成

高校生サミット
(情報発信)



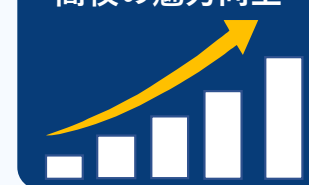
- ・発見した課題や魅力の発信、共有
- ・学校の枠を超えたつながりの創出

地域への波及



- ・学校に対する地域の理解を得る
- ・中学生や保護者からの関心を喚起

北部地域の
高校の魅力向上



多様な学び重点カリキュラム研究開発事業

教育委員会事務局
高校教育課
魅力ある高校づくり推進室

生徒一人ひとりの学習ニーズに応える学びを充実し、「自分らしく生きる力」を育む

令和8年度当初予算額 3,584千円（繰） / 令和7年度当初予算額 1,969千円（繰）

1 事業目的

生徒の多様な学習ニーズに応じた学びの機会を確保するため、特別支援教育の充実、生徒の興味・関心や進路希望に応じた選択科目の整備や学科・コース再編の検討を進める。

2 事業概要・スキーム

事業実施校は、ニーズに合わせて以下のいずれかの取組を行い、その成果について評価を行う

誰一人取り残さない、
多様で柔軟な学びへ



●令和8年度実施校（13校）

堅田、北大津、草津、野洲
石部、水口東、八幡、彦根東
河瀬、長浜北星
大津清陵馬場分校、信楽、愛知

(1) 通常の授業時間中での通級指導実施の研究

選択授業や習熟度別授業のような形で、通級による指導を授業時間内に取り入れられるよう研究する。

(3) 学校設定科目の研究

「国語基礎」「理科演習」「英語コミュニケーション基礎」など、中学校の学習内容の学び直しについて、カリキュラムの改編も視野に入れ、生徒に合った学習を研究する。

(5) 日本語指導を必要とする外国人生徒等への指導・支援に関する研究

学校における日本語指導の現状および外国人生徒等の実態を把握し、効果的な学習指導および支援の在り方について検討する。併せて、成果の蓄積および校内外での情報共有を可能とする体制の構築を図る。

(2) 生徒・教員に対する特別支援教育の理解・啓発活動の実施

- ・特別支援教育の持続的な実施を可能とするため、外部講師による教員向け研修を行う。
- ・ソーシャルスキルトレーニング講座など、特別支援教育に必要な特別講座を実施する。

(4) 多様な選択科目の設置

イラストやスポーツなど、特定の分野に興味を持つ生徒が、自身の興味に沿った学びを選択し、将来の進路選択の幅が広がるよう、学科改編やコース設置等を視野に入れた検討を行う。

(6) 教員の日本語指導に関する知識および技能の向上

持続可能な日本語指導体制を確立するため、外部講師を活用した教員研修等を実施し、教員の専門性向上を図る。

各学校における取り組みの流れ

1 実態把握

生徒の状況や課題を整理し、ニーズを把握

2 研究・研修

カリキュラム研究や教員研修を実施

3 特別授業の実践

特別授業や個別・少数支援で学びを実践

4 校内体制整備

校内の支援体制を整え、継続的に実施



高校魅力化チャレンジ事業

高校の自由な発想と生徒の声を生かし、県内モデルとなる魅力化の取組を事業化

教育委員会事務局
高校教育課
魅力ある高校づくり推進室

令和8年度当初予算額 7,609千円(繰) / 令和7年度当初予算額 4,000千円(繰)

1 事業目的

各高校が魅力化の取組を一層推進していくため、学校が自由な発想でチャレンジしようとする取組を応援することにより、県内のモデルとなる新たな魅力化事業を創出し、県内の高校へ波及させる。

2 事業概要・スキーム

1 八日市高校

地域リーダー育成

- ・地域活性化に向けて高校生ができることを考える。
- ・専門的な研修・実践の場を充実させ、リーダーとして必要な素養を学ぶ。
- ・地域のリーダーとなる人材を育成する。



2 愛知高校・愛知高等養護学校

インクルーシブな起業体験

- ・高校×高等養護学校×地元企業が連携
- ・「株式会社ECHI」による起業体験
- ・コース横断型選択科目群の導入

【主な取組】

○地元イベントでの商品開発(企画から販売まで)

○学校設定科目「起業プロジェクトⅠ,Ⅱ」の開設

3 草津東高校

スポーツによる地域との交流

- ・「草東スポーツの日(仮称)」を設定し、体育施設を活用し地域に開く
- ・地域住民と体育科生徒がスポーツを通して交流を深める
- ・大学、企業と連携し、健康について考える

【主な取組予定】

- 幼児との交流
アルティメット
サッカー など
- 高齢者との交流
グランドゴルフ
ポッチャ など

4 守山北高校

地域貢献・地域交流

- ・地域をフィールドとした探究的な学びの充実
- ・企業と連携したインターンシップの導入
- ・地域とともにある学校づくりの推進

【主な取組】

- 地域イベントへの参加
- 地域の子どもの活動補助 など



期待される効果

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 学校独自の魅力化の推進 | 3 地域や関係機関との連携強化 |
| 2 生徒の主体性・探究心の向上 | 4 県内モデルとして横展開 |



学校の独自性 × 地域・企業連携

学校発・生徒発の**チャレンジ**から、**魅力ある学校づくり**へ

高校の挑戦を応援し、生徒が主体的に学び、地域とともに未来をつくる魅力ある学校へ！

トビタテ！留学JAPANアライアンス事業

令和8年度当初予算額 26,026千円（繰6,008 国1,200 〇18,818） / 令和7年度当初予算額 34,152千円（繰16,652 諸17,500）

1 事業目的

県内の高等学校等に在籍する生徒を対象に、探究活動を伴う海外留学を支援することによって、「グローバルな視点を持って地域や社会の課題解決に貢献する人材」を育成するとともに、留学成果を社会に還元し、高校生等の留学機運を醸成する。



2 事業概要・スキーム

県内産学官で構成された滋賀留学支援コンソーシアムによる「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」を通じて、海外留学に必要な経費の一部を支給するとともに、留学経験の質を高めるため、留学前後のオリエンテーションおよび成果報告の場を提供する。

(1) 事業実施主体：滋賀留学支援コンソーシアム

- 会長 滋賀県知事
- 副会長 滋賀県教育委員会教育長
- 理事 滋賀県商工会議所連合会長
- 理事 滋賀経済産業協会会長
- 理事 環びわ湖大学・地域コンソーシアム理事長
- 理事 滋賀県国際協会会長
- 理事 滋賀県高等学校長協会会長
- 理事 滋賀県私立中学高等学校連合会会長

(2) プログラム内容

募集人数

50人/年

留学日数

12～92日

返済不要の留学支援金

30万円 アジア
50万円 その他

※R6・7年度の実績

派遣人数

94名

派遣国数

23か国

探究コース

- 🌐 社会課題探究コース
- 🏃 スポーツ・芸術探究コース
- 🧠 STEAM探究コース
- 💧 MLGs探究コース
- 🚜 【新】農業・森林産業探究コース
- 🏭 【新】ものづくり産業探究コース
- ★ 【新】滋賀と世界をつなぐマイ探究コース

プログラムの流れ

- ① 生徒募集（～3月）
- ② 選考（3～5月）
- ③ 壮行会・事前オリエンテーション（6月）
- ④ 留学（8～10月）
- ⑤ 事後オリエンテーション（11月）
- ⑥ 成果報告会（12月）

滋賀の課題解決を
世界で学ぶ

生徒の成長

留学での学びを滋賀へ

国際バカロレア推進事業

教育委員会事務局
高校教育課

令和8年度当初予算額11,681千円(⊖) / 令和7年度当初予算額11,742千円(⊖)

1 事業目的

国際バカロレアにおける「日本語によるデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム」(日本語DP)について、認定校である県立虎姫高等学校での円滑な実施を推進する。

2 事業概要・スキーム

国際バカロレア日本語DPとは

- 国際バカロレアは、国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。
- 課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成。
- 高校レベルのディプロマ・プログラム(DP)では、国際的に通用する大学入学資格(IB資格)が取得可能。
- 国際バカロレアにおいては、授業・試験は原則として、英語、フランス語またはスペイン語で行う必要があるが、日本語DPでは一部の科目を日本語で実施可能。ただし、DPカリキュラムの6科目中2科目は英語等で履修することが必要。
- 平成31年3月に県立虎姫高等学校が国際バカロレア校として認定され、令和2年4月に第1期生が入学。

国際バカロレアの学習者像

探究する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
信念をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
挑戦する人
バランスのとれた人
振り返りができる人



虎姫高校の日本語DPモデル



- ◆ TOK「知の理論」、CAS「創造・活動・奉仕」、EE「課題論文」は、探究型学習と全人的教育を強調する国際バカロレア教育の大きな特徴。
- ◆ 「英語」と「環境システムと社会」は英語で学習。
- ◆ コース期間は約2年。

卒業生の主な進路

海外大学進学

- ・ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)
- ・モナッシュ大学(マレーシア)

国内大学進学

- ・大阪公立大学
- ・九州大学
- ・上智大学
- ・国際基督大学

など

学びの最適化・高度化推進拠点形成事業

教育委員会事務局
高校教育課

令和8年度当初予算額 5,511千円（寄500 〇5,011）/令和7年度当初予算額 5,669千円（寄500 〇5,169）

1 事業目的

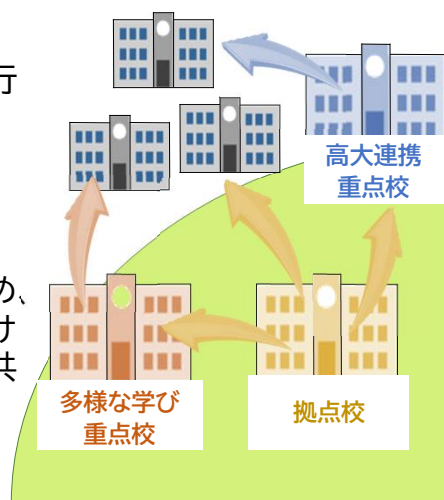
■「多様な学び重点校」と「高大連携重点校」から、20校程度を研究拠点校に指定し、次期学習指導要領改訂を見据え、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」や「探究的な学び」など、授業改善を進める。こうした取組により、これまで推進、発展、拡充してきた「主体的・対話的で深い学び」をアップデートし、すべての生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせる。

2 事業概要・スキーム

拠点校の好事例を共有 研究成果を全学校へ波及

■公開授業の実施
積極的に校外向け公開授業を行い、授業改善の取組を共有する。

■学びの最適化・高度化推進
セミナーの実施
研究主任の資質・能力向上のため、学識経験者等による助言を受ける。また、拠点校の研究成果を共有する。



社会への積極的発信 研究成果を全県へ普及

■高校生による【しが】学びの祭典の実施
県内の高等学校等の生徒がお互いの探究的な学習の成果に刺激を受け、学問的探究心を高める機会を設けるとともに、生徒の学びの成果を県内に幅広く発信する。



次代を拓く 高校生の好奇心
未来を変える 高校生の探究力

高校生による

【しが】 学びの祭典

2016 2019 2022
2018 2021 2024
推 発 拡
進 展 充

新時代を見据えた「**主体的・対話的**で**深い学び**」のアップデート

Shiga STEAM × 探究プロジェクト

教育委員会事務局
高校教育課

令和8年度当初予算額 4,246千円(国1,995 ⊖2, 251) / 令和7年度当初予算額 -

1 事業目的

文理の枠を超えた教科等横断的な視点を持ち、「問題発見・解決能力」・「言語能力」・「情報活用能力」を身に付け、新たな価値を創造し課題解決の道を切り拓くイノベーション人材*を育成する。

*イノベーション人材…起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）や起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材

2 事業概要・スキーム

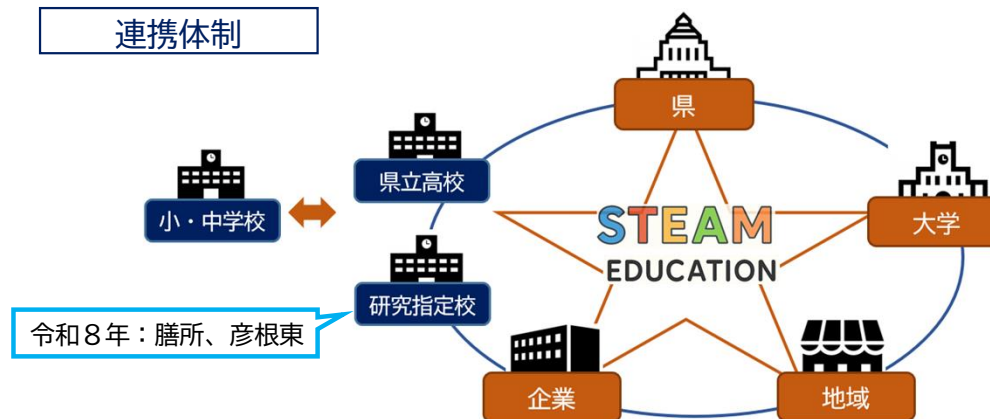
企業や高等教育機関等と連携・協働しながら、総合的な探究の時間や理数探究等の取組を中心に、STEAM教育の特性を生かし、実社会の問題を発見し解決策を考えることを通じた探究的な活動を充実させる。

教科等横断的な学習

文理の枠を超えたカリキュラム・マネジメントの充実



連携体制



研究指定校を中心とした取組

S ...Science T ...Technology E ...Engineering A ...Liberal Arts M ...Mathematics



- PLIJ*主催イベントなどへの参加
*学びのイノベーション・プラットフォーム
- 大学教授や企業関係者などの特別講座
- 大学、企業、県の施設などへの訪問
- 先進的取組校への視察

- スクール・ポリシーと結びつけたカリキュラム・マネジメントの実施
- STEAM教育の特性を生かした探究活動の充実（各教科、総合的な探究の時間など）

- 大学関係者、企業関係者からの研究指導
- データサイエンスを活用した探究の推進
- 共通教科「理数」開設に向けての研究
- 大学や企業との共同研究、県施設を利用した研究

- 【しが】学びの祭典への参加・発表
- PLIJ主催イベントへの出展
- 高校生出前授業など近隣の小中学校等との連携
- 研究成果（実践事例等）の普及

しが未来クラフトプロジェクト

令和8～10年度 産業教育高校のキャリア教育推進事業

教育委員会事務局
高校教育課

令和8年度当初予算額 8,464千円 (国3,933 〇4,531) / 令和7年度当初予算額 -

1 事業目的

滋賀県の観光産業を軸に、農業・工業・商業・家庭・福祉の専門学科が連携した学びをとおして、地域課題の解決に貢献できる産業人材を育成する。

2 事業概要・スキーム



1年目

- ◆連携コーディネーターの配置
- ◆地域連携コンソーシアムの設立
- ◇横の連携「分野融合型PBL & 地域連携」の取組

※ Project-Based Learning 課題解決型学習

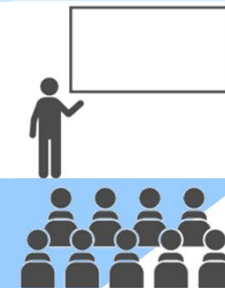


2年目

- ◆連携コーディネーターの配置
- ◆地域連携コンソーシアムの設立
- ◇コア校・ベース校体制
- ◇縦の連携
- 「分野融合型PBL & 地域連携」の取組

3年目

- ◆連携コーディネーターの配置
- ◆地域連携コンソーシアムの設立
- ◇コア校・ベース校体制
- ◇縦横融合の連携
- 「分野融合型PBL & 地域連携」の取組
- ◇取組を広く発表



〇観光クラフトPBLプロジェクト

- ・観光を軸とした専門分野の地域課題解決型学習を活かした取組
- ・アントレプレナーシップ教育や知財教育
- ・分野融合による地域起業体験・商品開発・観光事業等

〇ハイキャリア育成プロジェクト

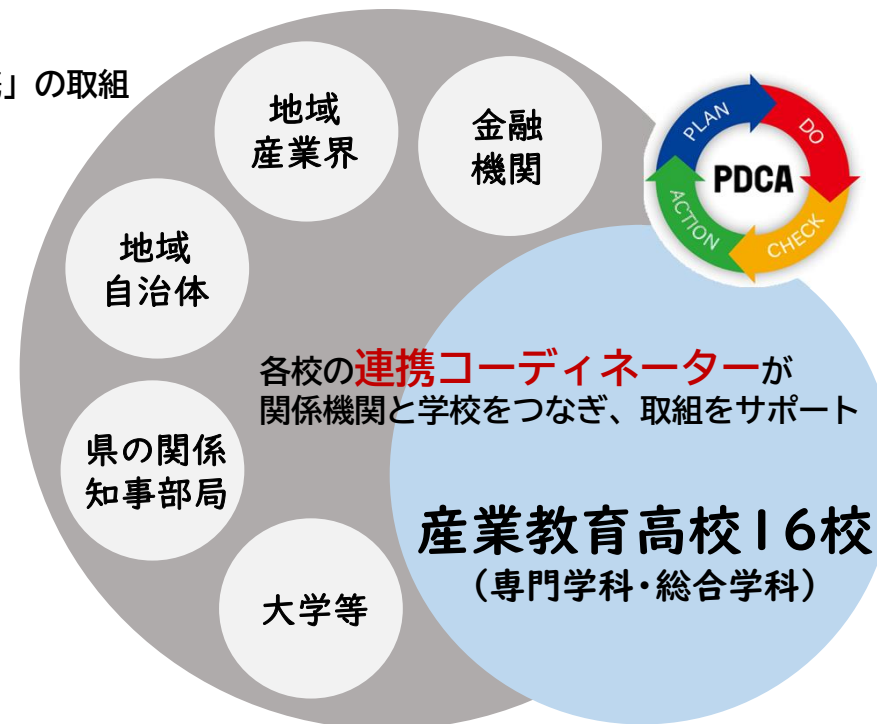
- ・産業界との連携による「ハイキャリア・インターンシップ」
- ・各専門学科の学びに応じた資格取得講座や検定支援
- ・外部講師との連携による集中講座、実技訓練等

〇滋賀の教育資源活用プロジェクト

- ・産業界と協働して、滋賀の財産に最新技術を活用しながら専門的な学びを深める取組
- ・県立高等学校産業教育設備整理事業で整備した機器を活用して、最新技術の学びを深める取組を実施

〇地域発信・学校魅力広報プロジェクト

- ・小中学生や地域住民に向けて、各専門学科の魅力伝える広報活動等
- ・各種コンテスト等への応募
- ・「ここ滋賀」や「しが学びの祭典」、各校の体験入学や研究発表会等で学習成果を発表



令和8年度当初予算額 4,604千円(寄2,060 ②2,544) / 令和7年度当初予算額 3,808千円(寄1,234 ②2,574)

1 事業目的

絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統技術等の技と心を生かし、専門高校（彦根工業高等学校）、地域産業界（彦根商工会議所）、地域（彦根市）が一体・同期化し共創することにより、**地域を活性化させ自律的で持続的な未来社会を創生できる産業人財の輩出を目指す。**

2 事業概要・スキーム

育成を目指す人材像 ～ものづくりを通して持続可能な社会の創り手の育成～

- | | |
|---|---|
| 1 高い倫理観を持ち、 地域の産業を支えられる人材 | 3 地域への愛着 と地域の発展と活性化に貢献したいという強い意志をもつ人材 |
| 2 高い技術力を持ち、ものづくりの現場でリーダーシップをとり イノベーションを起こせる人材 | 4 地域の将来を支え グローバルに活躍できるイノベティブな人材 |

育成する資質・能力

人間力（やり抜く力、勤勉性、
自制心、自己効力感 等）
技術革新に対応する**専門的スキル**
変化をチャンスに転換する力

具体的な取組

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 近江マイスター（1年） | 4 カンパニー制の充実 |
| 2 ブラッシュアップ実習・英語（2年）
プログレス実習・英語（3年） | 5 非認知能力と認知能力の
データ分析 |
| 3 長期インターンシップ（2年） | 6 海外留学制度の構築 |

人間力の向上を目指して

～日本社会に根差したウェルビーイングの向上～



「やり抜く力」 個人カルテの作成と生徒へのフィードバック
「勤勉性」
「自制心」
「自己効力感」

経年変化の蓄積

連携機関



高校版DMO・観光ビジネスプロジェクト

教育委員会事務局
高校教育課

令和8年度当初予算額 1,345千円（繰） / 令和7年度当初予算額 1,345千円（繰）

1 事業目的

- ・新たな観光資源の発掘、観光資源の魅力の増進および情報の発信等、観光ビジネスを推進する。
- ・観光ビジネスを通して観光産業と地域、行政、学校との連携を図ることで地域への愛着と誇りを醸成し、地域経済を担う人材を育成する。
- ・創業に関する意識を啓発する「アントレプレナーシップ教育」の推進を図る。

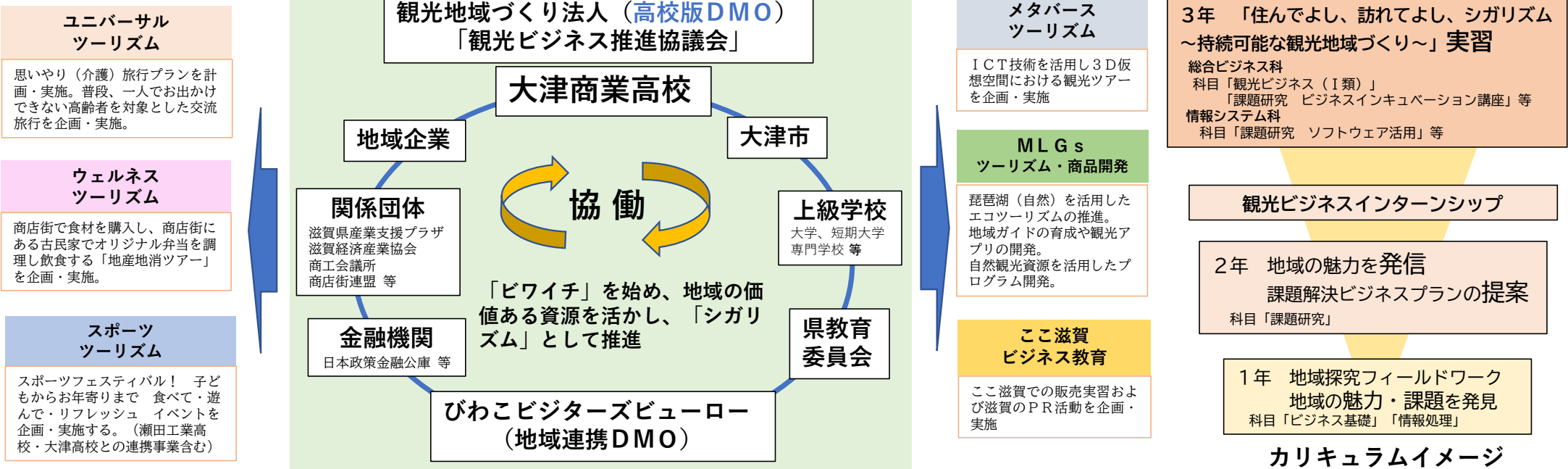
課題

- ・定住人口の減少と高齢化が深刻となっていく中、地域の経済、交通、文化、コミュニティの維持・発展のためには交流人口の増加は不可欠であり、観光消費額を増加させ、地域経済を活性化するためのさらなる取組が求められる。
- ・商業科新課程科目「観光ビジネス」において、地域の活性化を担う観光ビジネスを展開する資質・能力の育成が求められる。
- ・地域経済を担う人材育成および地域（商店街）の活性化に向けて、創業に関する意識の啓発が必要となる。

2 事業概要・スキーム

「住んでよし 訪れてよし」の持続可能な観光地域（まち）づくりの推進

ビジネスリーダーとなり、地域に新しい風を吹き込む人材を育成



カリキュラムイメージ

県内高等学校等配置図 (令和8年度)

